

近世の沼田城

はじめに 沼田城主の変遷 一天正8年(1580)～明治4年(1871)～

武田氏→真田氏→北条氏→**真田氏(信之・信吉・熊之助・信政・信直)**→幕府(破城)
→本多氏(旧本丸堀の外に御殿・政庁を再築)→幕府→黒田氏→土岐氏

1. 倉内城から沼田城へ

(1)主家武田氏の滅亡で乱世をさまよう国衆真田氏は、天正壬午の変による混乱をぬって、自ら攻略・普請した倉内城を確保することに成功した。これが自立の足がかりとなった。

①真田氏臣従先の変転(織田→北条→徳川) 滝川一益より倉内城を確保(天正10年6月)

(2)真田氏は利根・吾妻の地衆を家臣団化し、天正11年に倉内城とは別に新たな拠点となる沼田城を築き自立した。

①沼田城の築城記録(報33) ②築城当時の沼田城(上野国沼田城図) ③秀吉への臣従

④稲姫を迎える普請(報34)

2. 北条氏の沼田攻撃と秀吉の沼田領裁定

(1)沼田城の確保を悲願とする北条氏は、沼田城を奪回しようと大軍を動員して幾度も攻撃を繰り返した。真田氏は周囲の農民たちも城兵に加えて守りぬいた。長年続いた争奪戦の間に、真田氏による防塁・堀・塀・馬出等の増築・修改築が行われた可能性が大きい。

①北条氏の沼田城奪戦回数と規模(加沢記) ②真田氏の戦略と備え(同)

(2)天下統一に邁進する秀吉から、臣従の証として上洛を求められた北条氏は沼田領の領有を条件とした。これにより沼田領は秀吉の私戦を調停する事案となり、沼田城は北条氏の領有とされた。約3ヶ月後に名胡桃城事件が勃発し秀吉の北条討伐が始動すると、氏政・氏照らが沼田城代の猪俣邦憲に厳しく城固めの普請を命じた。

①北条氏政書状(報43) 北条氏照書状(報44) ②関東の抑え!沼田城に信之

3. 豊臣信幸の天守造営

(1)天正18年、秀吉は旧北条領の関東へ家康を転封させたが、同時に信濃・越後・奥羽への分岐点となる上州沼田城に、家康の承諾を得てまでして信之を配した。これにより沼田城は、徳川領国の関東で唯一外様大名の城となった。なお天守が四重か五重かの疑義については根拠となる一次史料がないため、地元の古記録や城絵図による推論の域を脱し得ない。

①信之の叙任を伝える後陽成天皇口宣案(報44) ②地元に残る天守造営の記事(報47)

③水役免除の信幸朱印状(報48) ④城絵図に見る石垣と天守(3様の本丸拡大図)

(2)沼田城に金箔瓦が使用されていた。天守を飾った瓦の可能性が大きい。天守や茶室の意匠に金箔・菊紋・桐紋を用いるのは、秀吉からそれを許された者とされてきたが、金箔に関しては文献上の根拠がない。また近年の調査では織豊系城郭以外からもそれらが出土している。金箔瓦と小菊瓦が何を語るのか、結論はまだ先のである。

①発掘された金箔付着瓦 ②秀吉「御掟五箇条」「御掟追加9箇条」 ③上田城出土例

4, 関ヶ原以後の増築、修改築

(1) 信之・信吉・信政までの普請記録は以下の通り（経年数は天正 11 年からの数）。

- ・慶長 9 年(1604)=21 年後 西三階櫓、水の手門の修復か（報 51）
- ・同 17 年(1612)=29 年後 三の丸・四の丸を割り、土手・升形を築く
惣堀を作り堤を築く（同上）
- ・寛永 9 年(1632)=49 年後 表三階櫓の改築（同上）
- ・同 11 年(1634)=51 年後 鐘楼を建設（鐘銘より）

①信吉までの普請記録 ②天正・正保の城絵図から

(2) 信直の代に行われた修改築の記録は下記の通り（万治元年の経年数は天守造営から）。

- ・万治元年(1658)=（天守造営より）61 年後
正月に天守三階を修復（報 53）
7 月に本丸の地形を 5 尺上げ、惣堀、天守を修復（報 54）
※参考（万治 2 年「支出書上帳」）
- ・同 3 年(1660)=77 年後 天守、表三階櫓、石垣の修復が終わる（報 56）
- ・寛文 10 年(1670)=87 年後 拾人番所を改築（諸事役人奉覚書）
- ・延宝 10 年(1680)=97 年後 大門の橋、三の門の橋、溜門の橋を架け替え(同上)

①信直代の普請記録 ②天守工事の記録か

(3) 天正 11 年、真田氏は巨大軍団の武田氏・織田氏さえ滅びた乱世の大渦にこぎ出す拠点として沼田城を築いた。浮沈を賭けた軍事要塞と言える。だが約 100 年後に取り壊された沼田城は、戦がなくなった近世の平和社会でその存在意義と役割に変化が起きていた。武士が役人となって領地を統治経営する官僚的藩庁機関となり、本丸に並ぶ大門・櫓・天守等も、領民らに真田氏の名声や威厳を思わせ、支配を正当化する象徴と化していたであろう。

①近世沼田城の景観（「沼田城破却記」、「猿ヶ京区有沼田城図」「城下絵図でみる沼田城」

おわりに

沼田城は秀吉が天下統一を実現するきっかけを作った城。その後家康の江戸入部と同時に徳川を牽制する要衝として真田氏の居城となった。その頃関東で天守が備わった城は江戸城・小田原城・沼田城のみで、戦国以来の所領を近世まで保持したのは真田氏だけである。真田氏領と沼田城は、戦国から平和な社会へと移り変わった中近世移行期の歴史を明らかにする上で、格好の研究対象と位置づけることができる。